

# 松川浦における 2017 年級アサリの分布密度

福島県水産資源研究所 資源増殖部

部門名 水産業－栽培漁業－アサリ

担当者 佐藤利幸・山田学・松本陽

## I 新技術の解説

### 1 要旨

松川浦でのアサリ漁業は、震災後自粛されていたが、2016 年から試験的な操業が開始され、年間 5～6 トン程度の水揚量がある。現在のアサリ資源は高水準で発生した 2013 年級群により維持され(図1)、2017 年時点の資源量は約 1,000 トンと推定されている。

しかし、2014 年以降、毎年アサリの発生は確認されるものの、翌年の夏季に大きく減耗し、目立った新規加入はみられなかった。

2017 年に発生した稚貝は翌年の夏季を超えた後も、高密度で残存が確認された。このことから、高水準の発生群である可能性が高まるとともに、新たな資源としての加入が期待されることが明らかになった。

- (1) 調査は、2018 年 11 月に松川浦内のアサリ漁場 5 地点で実施した(図2)。各地点で方形枠(面積 25 cm × 25 cm)を用い、深さ約 10 cm までの底土を採取し目合い 1 mm の篩にかけた。この作業を 4 回行い篩上に残ったアサリを採取した。採取したアサリの殻長、重量等を計数・測定し、分布密度及び殻長組成を求めた。
- (2) 2017 年発生群の漁場別分布密度は、2018 年 11 月現在 64～2,840 個体/m<sup>2</sup> で、アサリの主要漁場である川口前及び揚汐の分布密度が特に高かった。2013 年級群と比較すると、漁場別の分布密度は異なるが、同等の発生水準とみられた(表1)。
- (3) 2017 年級群の殻長は、2018 年 11 月時点で殆どが 25 mm 未満であった(図3)。2019 年夏季には一部が漁獲資源として加入するとみられた。

### 2 期待される効果

今後の漁獲加入が期待できることから、資源量を推定して計画的利用方法を検討する資料となる。

### 3 適用範囲

松川浦のアサリ漁業関係者

### 4 普及上の留意点

今後、稚貝の減耗が少なくなり、安定する時期を迎えているが、高密度であることから、成長及び分布密度を注視していく必要がある。

高密度域での稚貝の成長が鈍ることが懸念されるため、濡筋及び低密度域へ移植する等の試験を実施したうえで、漁業者の実践的な活動への展開を図る必要がある。

## II 具体的データ等

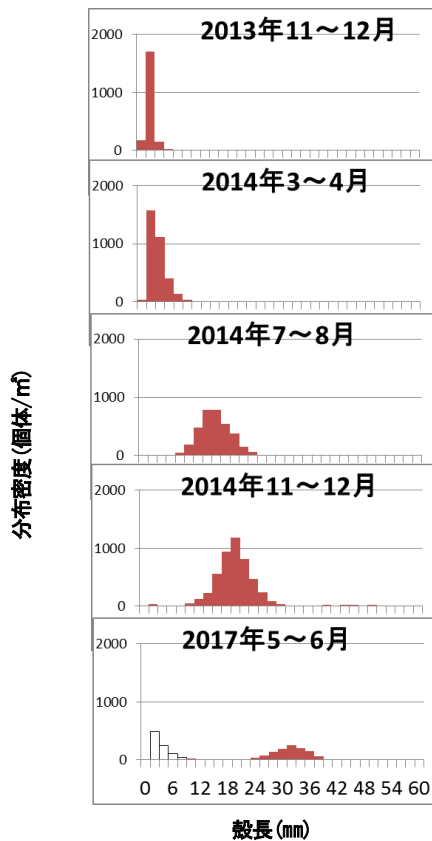


図1 2013年級群の殻長組成の推移(地島南)

表1 発生から翌年11月時点における稚貝の分布密度

漁場名	2017年級群	2013年級群
川口前	2,840	1,692
地島南	888	4,396
揚汐	2,728	456
十二本松	984	-
松川支所前	64	-

「-」は測定実績なし

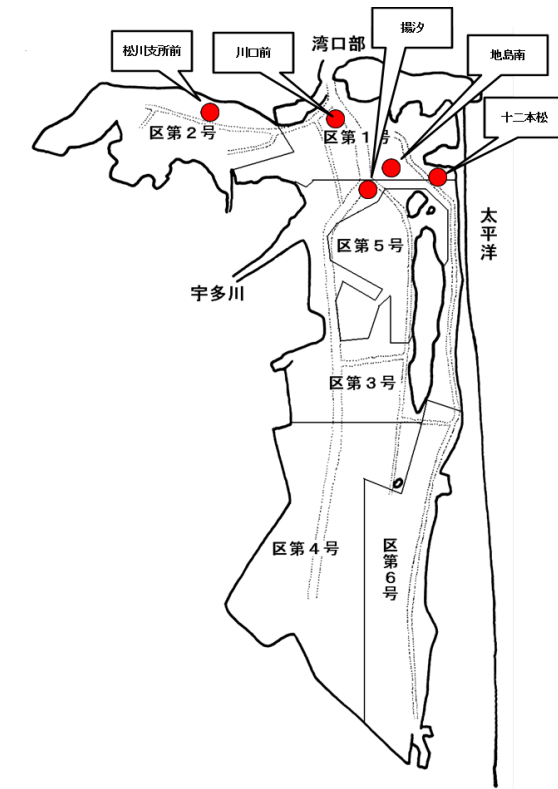


図2 調査地点

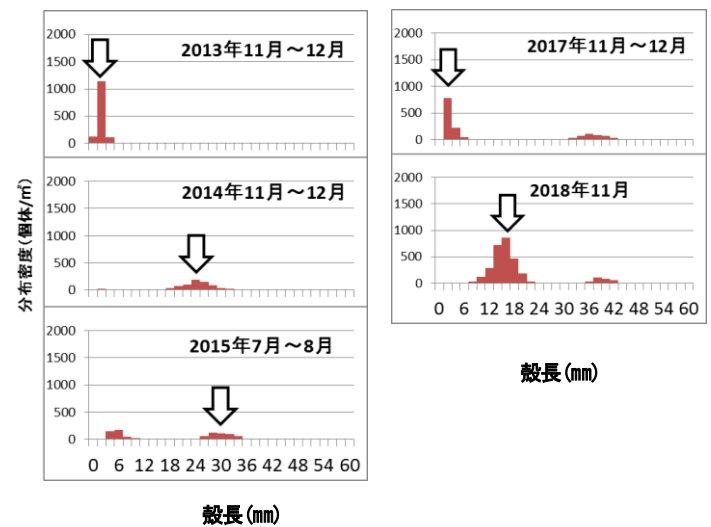


図3 2013年級群及び2017年級群の殻長組成の推移(揚汐)

## III その他

### 1 執筆者

佐藤利幸

### 2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成25~30年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究

### 3 主な参考文献・資料

平成9~17年度 福島県水産試験場事業報告書

平成18~28年度 福島県水産試験場事業概要報告書